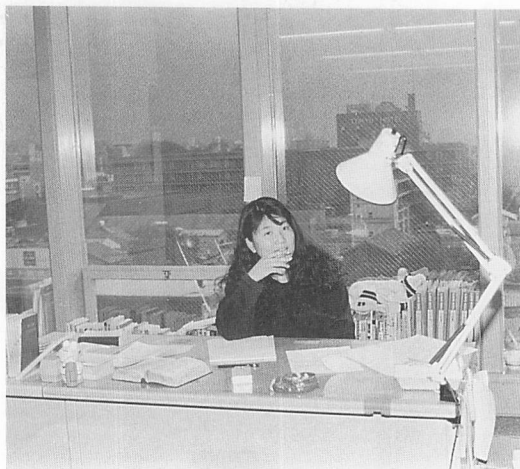


# 出逢い・触発されて。

アートプロデューサー。小泉由紀さん  
人には一生を決める出逢いがある。



衝撃の高松伸氏との出逢い。彼女の人生を変えた一瞬である。その類まれな奇才ぶり、建築家の麒麟とも言うべき氏に触れた時、弾ける何かが彼女に起こった。芸大一回生の時である。高松伸事務所は、本質的には、女を入れない。その頑固なポリシーを塗り替えたのは——彼女である。大学で氏のゼミを取り、別口で事務所に通う。氏に染められた生活を送りながら、着実に、自分の方向づけをする。男だけの水の中に石を投げ込んだものの、最初の一年は、給料なし。本の整理や電話番の雑用係。睡眠時間3、4時間という過酷な条件の中、眠るようにして車を走らせ自宅に帰る毎日。こんなことを続けて何になるのか。言い知れぬ不安に首を振り続けてきたのも、負け

たくないという思いからであった。「人より先を走りたいなら、人の寝てる時に働かなあかん。」氏の言葉を忠実に守り抜く。去る者追わずの世界に身を浮かべている以上、しがみつくより他ないのである。半ば強引なやり方で彼女は見事に女だてらをやったのけた。試練をチャンスと思える人は幸せである。ついてくるヤツが本当に役に立つ人間なのである。根性が実を結んで彼女は欠かすことのできない存在になる。

「何をするにも続けるということが大切なんです。下積みが我慢ならな」というのは、それで終わりですね。最近、勢いだけでしょ。自分を突き詰めもせずに、かじるだけかじってすぐ諦めてしまふ。よくない傾向ですよ。見切りをつけるならつけるでその状況まで突き詰める必要があると思うんです。目先ではなくて、長いビジョンを立てることですね。やっていくうちに変わってきたとしても常にこうしたいというものは持ち続けるべきですよ。喝を入られたような彼女の言葉である。マニッシュな部分を強調して、彼女はバイタリティーあふれる人である。男勝りと自称するのも、男を愛するが故のことである。

形として残る建築に魅せられ、芸術肌のプランナーに。商業的部分を重視するより、作品として残したい。彼女の思い入れがうかがえる。



——起爆剤になることをいつも持ち続けていたい——

根性で咲かせる花もある。

彼女には、いつまでも先を見て、助走し続けてもらいたい。

## ALL SORTS OF WOMEN.

京都にはいろんな女がいる